

## 7:パフォーマンスモデル作成方法~現職者同時比較~

見出し	操作手順
	パフォーマンスモデル現職者同時比較を用いたモデル作成方法を解説します。
	メニューバー <b>表示</b> の上から2つ目の <b>パフォーマンスモデル</b> を選択します。
	ここにパフォーマンスモデルの一覧が表示されますが、新規でモデルを作成する場合は、 <b>新規</b> ボタンをクリックします。
	アセスメントの選択をし、そして作成方法として、 <b>現職者同時比較</b> を選択します。
	こちらは、現職者のアセスメントの結合スコアでモデルを作成する方法となります。チェックをし、 <b>続ける</b> を押します。
モデル名の設定(0:51)	そうしますと、作成するモデルの名前を入力する画面に移ります。今回は「営業マネージャー」と入力します。
	その他必要な情報は <b>詳細欄・ノート欄</b> に入力することができますが、こちらの項目は任意となりますので、必要に応じてご活用ください。
モデルの基盤となる パフォーマーの選択 (1:21)	次に、該当のパフォーマーを選択していきます。
	<b>従業員</b> の下の追加ボタンを押し、 <b>トップパフォーマー</b> を選択します。
	<b>トップパフォーマー</b> に関しては、モデルを作成する上で最低3名、最大50名の範囲で選択が可能となっています。
	今回は、こちらの3名を選択します。
	チェックをつけたら、 <b>選択を追加</b> をクリックします。
	これによって、トップパフォーマーに3名が選ばれました。
	ちなみに、トップパフォーマーの対比として、ボトムパフォーマーを入力する場合、こちらより <b>ボトムパフォーマー</b> のグループとして選択が可能です。
	こちらは、入力必須ではありませんので、割愛することも可能ですが、今回は3名をボトムパフォーマーとして選択します。

	トップパフォーマー3名、ボトムパフォーマー3名が選択されました。
パフォーマーの削除方法 (2:26)	もしこの中で、ボトムパフォーマーの木谷さんをこのグループから削除したいという場合は、チェックボックスにチェックを入れ、 <b>削除</b> ボタンを押すことによって、リストから削除することができます。
	では必要な候補者が選択されたら、作成に移ります。
	こちらの <b>作成</b> ボタンをクリックするとページが切り替わり、このようにモデルグラフの画面が表示されます。
モデルグラフの見方 (3:06)	上の緑で表示されている数字がトップパフォーマーの分布、そして赤で表示されている数字がボトムパフォーマーの分布となっています。
	パフォーマンスモデルのベースとなる青いバンドに関しては、トップパフォーマーの分布を元に表現されています。
	ですので、ボトムパフォーマーの分布はあくまで参考値であり、この幅には反映されていないということをご理解ください。
作成したモデルの有効化 (3:37)	<b>有効化をして保存</b> ボタンをクリックすることで、このモデルの現在ステータスが <b>作成</b> から <b>有効</b> に変わり、パフォーマンスモデルとして、このプラットフォームの中に蓄積されます。
有効化したモデルの確認 方法(3:54)	実際に、メニューバー <b>表示</b> 、2番目の <b>パフォーマンスモデル</b> で、蓄積されたかを見ていきましょう。
	こちらの通り、ステータスが <b>有効</b> という状態で、保存されていることが確認できました。  現職者同時比較の作成方法は以上となります。